



地域名	長崎県平戸市 <sup>ひらど</sup> 度島地区 <sup>たくしま</sup>	
地域運営組織名	特定非営利活動法人度島地区まちづくり運営協議会	
①地域の概要	<p>九州の西、長崎県の北西端に位置する平戸市は、平戸島、生月島、大島、度島、高島の有人島と周辺にある多数の島々で構成されている。なかでも度島は、平戸島の最北端から最短距離で2.3kmに位置しており、東西3.5km、南北1.0km、面積は約3.6k m<sup>2</sup>の有人島である。</p> <p>度島には、3つの自治会（度島浦、度島中部、度島三免）が存在し、地域に暮らす生産年齢の男性は、まき網船等で常時島を離れているため島内におらず、日常は高齢者と女性、子どもが島内で生活する特異な状況となっている。</p> <p>教育については、島の中央に小中併設校の平戸市立度島小・中学校があり、保育所を合わせると、10年以上同じクラスで過ごす子供が大半となっている。</p> <p>度島は、更なる発展のために、協働によるまちづくりを推進したいと考え、平成25年度に度島地区まちづくり運営協議会を設立し、今後のまちづくりの指針となる度島地区まちづくり計画を策定した。平成26年には、本格的なまちづくり事業を実施しながら特定非営利活動法人の認証を受けて法人化し、コミュニティバスの運営をはじめた。</p>	
②面積・人口・世帯数	<p>面積：360ha 小学校区単位  人口：701人  世帯数：227世帯  高齢化率 30.9%（平成27年度国勢調査時点）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
③中核施設の概要	施設名称	ふれ愛センター度島
	開設時期	平成26年4月
	設置方法	公設
	設置主体	平戸市
	運営方法	民営（指定管理者制度）
	運営主体	特定非営利活動法人度島地区まちづくり運営協議会
	売上額	約1,000千円以内（平成28年） コミュニティバス運行、講座会費、自動販売機など

④拠点エリアに集積している機能	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="405 203 692 248">機能</th> <th data-bbox="692 203 1107 248">施設名</th> <th data-bbox="1107 203 1378 248">運営主体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="405 248 692 394">交通</td> <td data-bbox="692 248 1107 394">コミュニティバス停留所</td> <td data-bbox="1107 248 1378 394">特定非営利活動法人度島地区まちづくり運営協議会</td> </tr> <tr> <td data-bbox="405 394 692 439">行政</td> <td data-bbox="692 394 1107 439">度島連絡所</td> <td data-bbox="1107 394 1378 439">平戸市</td> </tr> <tr> <td data-bbox="405 439 692 483">医療</td> <td data-bbox="692 439 1107 483">国民健康保険度島診療所</td> <td data-bbox="1107 439 1378 483">平戸市</td> </tr> <tr> <td data-bbox="405 483 692 584">福祉</td> <td data-bbox="692 483 1107 584">介護予防拠点施設「ふれ愛センター度島」</td> <td data-bbox="1107 483 1378 584">平戸市</td> </tr> <tr> <td data-bbox="405 584 692 629">ガソリンスタンド</td> <td data-bbox="692 584 1107 629">2店舗（漁協、農協）</td> <td data-bbox="1107 584 1378 629">漁協、農協</td> </tr> </tbody> </table>		機能	施設名	運営主体	交通	コミュニティバス停留所	特定非営利活動法人度島地区まちづくり運営協議会	行政	度島連絡所	平戸市	医療	国民健康保険度島診療所	平戸市	福祉	介護予防拠点施設「ふれ愛センター度島」	平戸市	ガソリンスタンド	2店舗（漁協、農協）	漁協、農協
機能	施設名	運営主体																		
交通	コミュニティバス停留所	特定非営利活動法人度島地区まちづくり運営協議会																		
行政	度島連絡所	平戸市																		
医療	国民健康保険度島診療所	平戸市																		
福祉	介護予防拠点施設「ふれ愛センター度島」	平戸市																		
ガソリンスタンド	2店舗（漁協、農協）	漁協、農協																		
⑤拠点づくりの中心主体	特定非営利活動法人度島地区まちづくり運営協議会																			
⑥拠点づくりのプロセス	背景、経緯	<p>度島地区は、昭和30年に平戸市に合併し、漁協、農協、郵便局、診療所、保育所、小・中学校などが立地している。日常的な買い物や通院は、平戸市街地までフェリー度島に乗船して行かなければならない</p> <p>また、度島島内に公共の交通手段がなく、自家用車が運転できない高齢者等にとって生活交通の確保が課題となっていた。</p> <p>度島地区は、行政機関が学校と診療所以外存在せず、行政サービスが行き届きにくい状況があった。</p>																		
手法	<p>平成25年10月に、国土交通省の「小さな拠点」形成推進事業の助成を受け「度島地区まちづくり運営協議会」を設立。平戸市から委託を受けた集落支援員を中心にまちづくりを進めている。協議会設立にあたり「まちづくり計画」を策定するため、住民参加の意見交換を行い「まちづくりの重要性」や「全島民が一致団結することの大切さ」を共有した。また、まちあるき等を行い普段は気づかないような度島のお宝や課題を再確認するワークショップ形式の議論を行い、未来の度島についてみんなで考え、まちづくり計画を実行に移す原動力となっていた。</p> <p>更に、平成26年には平戸市コミュニティ推進モデル地域交付金を活用し、拠点を中心に新たな活動団体が自主的に組織され、子育て中の女性や健康体操など、これまでなかった交流が生まれた。</p>																			
サービス・活動	<p>医療・福祉・コミュニティの複合施設「ふれ愛センター度島」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療所と地域交流施設が併設した介護予防拠点施設</li> <li>・生活環境部会（清掃活動、交通安全、環境整備）</li> <li>・健康福祉部会（高齢者福祉、健康づくり、子育て支援）</li> <li>・安心・安全部会（防犯活動、見守り活動、健全育成）</li> <li>・地域づくり部会（各種スポーツ、各種イベント、伝統継承、新聞発</li> </ul>																			

		<p>行)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業育成部会（平成 27 年度から新設。度島の産業の活性化を目的とし、商工業、観光、特産品開発など、将来的に、島民の雇用ができる下地を作る活動）</li> </ul>
	<p>拠点までの交通手段</p>	<p>平成 27 年 1 月よりコミュニティバスを運行、1 日 6 便ふれ愛センターを巡回するほか、ふれ愛センターから本村港や飯盛港の 2 つの区間を平日限定の月～金曜日に運行している。バスの車両は社会福祉協議会からの寄付であり、1 回あたり 100 円で乗車できる。</p>
	<p>運営</p>	<p>特定非営利活動法人度島地区まちづくり運営協議会では、生活環境部会、健康福祉部会、安心・安全部会、地域づくり部会、産業育成部会等、部会長と部員で構成された 6 つの部を設置し運営を行っている。また、国民健康保険度島診療所はふれ愛センターに併設されており、協議会としてはお互いの状況が確認し合いながら活動を展開している。</p>
<p>⑦効果</p>	<p>特定非営利活動法人の法人格を取得し、資金や活動面で事業の幅を広げることができた。また住民からの要望をアンケート調査でまとめ、コミュニティバスの運行がはじまった。10 人乗りのバスを 1 日 5 便運行することにより「自分達が経営する、自分達の足」という「住民一人ひとりが経営者であることの自覚」と「地域住民の乗り支え」の気運も高まった。</p> <p>度島ふ・れ・あ・いモデル運用事業では 44 世帯にタブレットを活用し「見守り」や「回覧板」「買い物」など生活支援サービスの向上にむけた事業や毎月第二月曜日には「月イチ床屋（度島には床屋さんがなくて不便という声）」が定員 10 名の最低 5 名以上の利用者で開催された。また、「おかえりさないイルミネーション」など地域イベント、度島まちづくり塾では度島中学校の 1・2 年生の生徒を対象に、まちづくりへの関心をもてるような次世代の担い手づくりへと、拠点を中心に様々な活動へと広がり始めており、年間利用者数は約 6,000 人である。</p>	
<p>⑧課題</p>	<p>ふれ愛センター度島の新設により、これまで自治会所有の公民館などを活用してきた島民にとって新たな拠点が広がった。施設機能である介護予防事業（ミニデイサービス）や、島民による様々な自主活動により、予想を上回る利用希望があり予約がとれない状況が生じたことから、改善にむけた協議を重ねている。</p> <p>さらに、行政出張所や支所的な機能をもつ新たな施設を希望する声など、地域と行政をつなぐ要望なども継続的に行っている。</p> <p>また、協議会では、協議会と繋がりづくりを行う工夫として地域の情報やまちづくり活動を発信し度島新聞の発行やホームページでの情報発信を行い、まちづくり活動でうまれた様々な「やりたいこと」への実現に向け、新部会をつくるなど、将来的なまちづくりに向け動き出している。</p>	

⑨写真



■施設



■コミュニティバス



■「おかえりなさい！イルミネーション」イベントの様子

出典

- ・『度島まちづくりの歩み（平成28年度版）』特定非営利法人度島地区まちづくり運営協議会発行
- ・実践編：「小さな拠点づくり」ガイドブック（国土交通省国土政策局）2015.3